

目標 ・「やまなし」の構成や展開、その特徴について理解することができ、【知(1)カ】
 ・比喩や反復などの表現の仕方や言葉の使い方に気付くことができる。【知(1)ク】
 ・「五月」と「十二月」の場面を比べて物語の全体像を具体的に想像したり、作者の独特な表現の効果を考えたりすることができる。【思(1)エ】
 ・「やまなし」を読んで想像した作品の世界や、作者が作品に込めた思いについて自分の考えをまとめることができる。【思(1)オ】
 ・互いの考えの共通点や相違点、よさを認め合い、自分の考えを広げることができる。【思(1)カ】
 ・今後の読書生活において、表現や構成、作者や関連するシリーズなど本を選び、作者の描く作品の世界を味わったりすることができる。【態】

授業の様子

第2時、第3時を中心に示します。

【手立て1】自分との対話と他者との対話の往還

単元に入る前に、学習の進め方と学習過程に応じた対話の方法について、オリエンテーションを行いました。

自分との対話

叙述に着目して、感じたり考えたりしたことを表し、他者との対話につなげました。

学級内対話

教師がコーディネーターとして、児童に問い返したり、価値付けたりして考えを共有しました。

友達との対話

ペアや班などで対話しました。互いの考えを比べて、考えの違いに気付いたり、よさを認め合ったりしました。

自分との対話

自分との対話と他者との対話の往還を通して、再構築した考えをまとめました。



友達の考えを聞いて、気付いていなかった、「かわせみ」の飛び込んでくる様子が分かり、「五月」の谷川の底の世界をよりイメージできた。
 (児童の「振り返り」より)

【手立て2】教材分析を生かした「読みの観点」

「五月」の場面を読み、児童の気分・情調(叙述から感じた雰囲気や印象など)を表す言葉を基に、「読みの観点」を明確にしました。

「読みの観点」を明確にするための学級内対話

学級内対話

学級内対話によって明確になった「読みの観点」

T : 「五月」の谷川の底の世界は、どんな感じがしましたか。
 C1: 怖い感じがしました。 気分・情調を表す言葉を確認する問い
 C2: 暗い感じもしました。
 T : どこからそのような感じがしたのか、詳しく読んでいきましょう。
 何に着目して読めばよいですか。 叙述とつなげる問い
 C3: 教科書の言葉。叙述です。
 T : どんな言葉に着目すればよいでしょうか。
 C4: 谷川の底に出てきているものです。 「読みの観点」を引き出す問い
 C5: 表現です。
 T : 表現とはどんなものですか。 問い返す
 C6: 色や音、光です。
 C7: 例えもあります。
 T : 出てきているものが、どのように描かれているかに着目して読むとよいのですね。 価値付ける

- ①「五月」の谷川の底に出てくるもの
 - ②どのように描かれているか
- 表現(例え、色、音、光など)、言葉の使い方
登場人物の描き方



この時間以降の学級内対話では、「宮沢賢治らしさ」「宮沢賢治の思いや願い」という「読みの観点」が追加されました。

何がでてきているかに着目して、暗い川底の様子を想像しました。自信はなかったけれど、友達が聞いてくれて、自分の言葉で答えることができました。自分一人では想像できなかった光の様子について、班の友達が想像したことを説明してくれたおかげで考えることができました。対話がきっかけになりました。
 (児童の「振り返り」より)

※下線は「読みの観点」に関わる部分

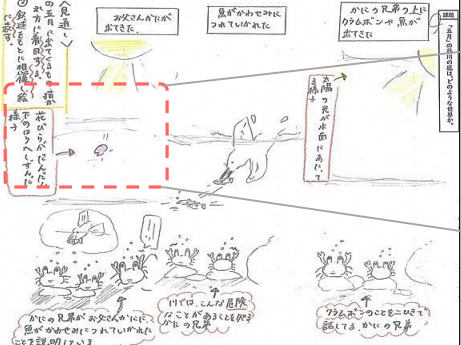
【手立て3】児童の実態に応じた学習シート

児童が自分で学習シートを選び、「読みの観点」に沿って「五月」の谷川の底の様子を想像したことを、学習シートに表せるようにしました。A児の取組を中心に示します。

交流前

Aシートを選びました。
 「読みの観点」に沿って想像したことを絵や言葉で表しました。

自分との対話



交流

学習シートを見比べながら、表現の効果を考えたり、対話の前にはなかった表現の効果に気付いたりしました。

友達との対話



「かばの花びら」は、何の意味を表しているのだろう。

「かわせみ」が飛び込んできたのは、一瞬の出来事だったんだ！お父さんのかにが来てくれて、「かにの兄弟」が怖がっている気持ちが分かるね。

交流後

他者との対話を踏まえて、自分の考えを見つめ直しました。「かばの花びら」が流れてくる描写から、新たに考えたことを付け足しました。

自分との対話



学習シートに付け足した言葉「こわい」「さんごく」「安心はできなそう」

みんなの話を聞いて、いろんな表現の仕方が出てきて、言葉に着目して学習できました。交流で、少し悩んでいたとき、友達がアドバイスをしてくれて安心できました。交流後は、自分の考えとは違う考えを聞いて、納得したり付け足したりすることができました。

(A児の「振り返り」より)

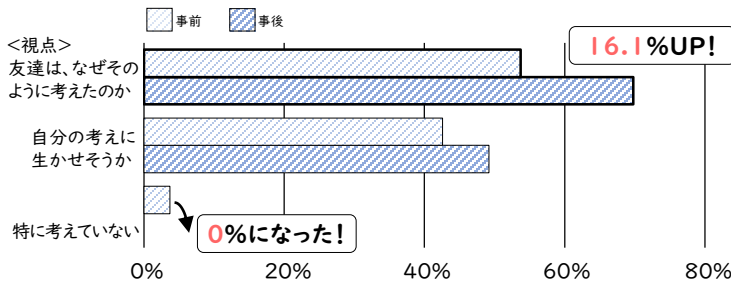
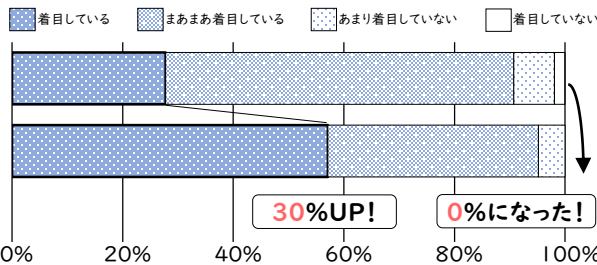
児童は、「読みの観点」や自分で選んだ学習シートを使って、自分なりの考えを言葉や絵で表すことができました。授業の初めに悩んでいた児童も、他者との対話での気付きを生かして、自分の考えを見つめ直し、より明確なものにしていきました。さらに、授業が進むにつれて、多くの児童が友達のまとめ方も参考にすることで、表し方の幅を広げていきました。

検証

作品を読み、味わったことを自分の言葉で表現する児童の姿に近付いたかについて、検証しました。

児童アンケートの結果

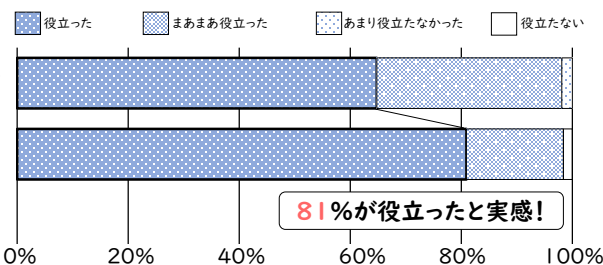
Q1. 友達の言葉に着目して対話しているか。また、どのような視点で友達と対話しているか。



Q2. 自分の考えをもつときに、何を基にしているか。*下線は、授業で児童から引き出した「読みの観点」につながる部分

事前	事後
<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の行動や気持ちを基に考えている。 登場人物同士の関係をおさえている。 何について考えればよいか、あまり分かっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 感じたことや印象を基にしている。 物語の表現の仕方や描かれ方などから読み取れることを基にしている。 作者の伝えたいことは何か、考えている。

Q3. 学習シートは、対話に役立ったか。



学習シートについての自由記述 (回答者数63人)	
・友達に伝えやすい ・言葉を示しながら説明できる	伝えやすさ
・相手のよいところをメモして自分と対比できる ・友達と考えが同じか違うか見比べるのに役立つ	比べやすさ
・分からないことや感想を共有できるのが楽しい ・友達の考えやいいところを書き込める	対話への充実感

事後では、61名の児童が学習シートについて肯定的な回答をしました。一方、「学習シートがない方が考えをまっすぐに伝えられる」という理由で「役立たない」と回答した児童がいました。学習シートの活用方法や活用する時間を考える必要があると考えました。

対話への目的意識が高まったことがわかります。「読みの観点」は、自分の考えをもつ際に、叙述に着目して考えることにつながりました。学習シートは、自分の考えを表し、友達に伝えたり、互いの考えを比べたりすることに役立ったことがわかりました。

言語活動「ブックトーク」での対話の様子

※ □は、着目している叙述 □は、表現の効果や作品の全体像に関わる箇所 □は、自分の言葉で表現している箇所
□は、作者の思いや願い、他の作品と関連付けている箇所 □は、自分の言葉で表現している箇所

B児: 私が一番心を引かれたのは、ジョバンニが最後「カムパネルラ、僕たち一緒に行こうね。」と言ったときに、もうカムパネルラが見えなかったところです。

C児: 一番ぐっとくるよね。ああ、もういないんだなって。

B児: 理由は、「鉄砲玉のように立ち上がりました。」とか「のどいっぱい」とか「いっぺん真っ暗になつたように思いました。」という表現から悲しいと言う言葉では表せないくらい感情が分かって、そこが一番いいなと思えました。私も、ジョバンニと同じで、とても悲しいという感情が込み上がってきました。宮沢賢治さんの例えがとても綺麗でたくさんの感情が伝わってきて、とてもいいなと思えました。

C児: 賢治さんの「イーハートブの夢」。災害にあった。それで、大切な人を守りたいという願い。それにすぐつながっている。

→ 叙述に着目している
→ 表現の効果を考えている
→ 表現の効果を基にしている
→ 自分の言葉で表現している
→ 表現の効果を考えている
→ 他の作品と関連付けている
→ 作者の思いや願いに着目している

抽出児の変容 教材「雪わたり」<D児の診断テストの結果> ※下線の凡例は、言語活動「ブックトーク」と同じ

事前 表現の仕方がいいなと思えました。理由は、「まるで」を使って、お月様のことを「真珠のお皿みたい」と言ったところや、「お星様は野原のつゆがきらきら固まったようです。」と表現していて読者にとって、景色や心情が伝わりやすかったからです。

事後 人間の子どもとつねの子どもが一緒になって遊んだりする場面が賢治さんの作品らしいな、と思えました。なぜかという、人間だけでなく、他の生き物と遊んでいる、という賢治さんの世界観が「注文の多い料理店」や「セロ弾きのゴーシュ」と似ていると思ったからです。賢治さんの作品は、悲しい場面や、暗い場面がたくさんあるイメージだったけど、「雪わたり」は歌ったりおどったりして、最初から最後まで楽しくなるような作品でした。

B児、C児、D児は、表現の効果や作品の全体像を考えながら読み、味わったことについて作者の思いや願いとつながって自分の言葉で表現することができました。他者との対話を通して、自分の考えをより確かにしたり、見方や考え方を広げたりしながら、作品をより深く味わっていました。

成果と課題

○本実践を通して、対話が充実したことと「再構築」の時間を保障したことによって、児童が自分の考えと改めて向き合い、作品を読み、味わったことを自分の言葉で表現することにつながりました。

○本単元で学習したことを、日常の読書にも生かしたいという意識が高まった児童が多数いました。

◇児童の実態に応じて学習シートを作成したことは、一定の成果がありました。しかし、単元の終末では、学習シートによっては、かえって自分の言葉で考えを表現することに悩む児童の姿が見られました。今後は、学習シートの活用方法や活用場面を吟味していきます。